

# 新春 座談会 2017

『埼玉工業大学』と『東都医療大学』。深谷市内には県北で唯一、大学が2校あります。地域における貴重な知的資源である大学が地域とどのように連携し、その力を『まちづくり』にどう生かせるのかを市長が2校の学長から伺いました。

## 大学での教育と

## 学生による地域での活動

### 市内で行われている 特色ある教育活動

**小島市長** 市内に大学が2校あることは市民の皆さんもご存じかと思いますが、具体的に学生がどのような分野を学び、研究をしているのかを知る機会は少ないと思います。そこで、まずはそれぞれの大学の特色をお聞かせください。

部5学科あります。設立当初は工学部だけでしたが、『心の教育』も重視したいとの思いから、平成14年に文系の人間社会学部を設立しました。設置している学科は、工学部が機械工学、生命環境化学、情報システム学、人間社会学部が情報社会学、心理学と幅広く、高い倫理観を持った『技術者』をはじめ、さまざまな分野の学生を社会に送り出しています。

マンケア学部看護学科を設置し、看護師・助産師・保健師を育成する大学です。以前から、医療現場では、医師以外の『医療人』の育成が課題となっていました。そんな中、深谷市から深谷赤十字病院に近い土地を貸していただいたため、こちらに開校しました。

**中條学長** 東都医療大学はヒュー

### 地域とのつながりが 学生を育てる

**小島市長** 平成21年には埼玉工業大学と、平成26年には東都医療大学とそれぞれ包括連携協定を結び、さまざまな面で市の事業に協力をいただいております。また、それ以外にも地域のイベントへ積極的に学生が関わっていただき、ありがたいです。

例えば、地元酒造会社と協力した日本酒造りや、商工会と協力したイルミネーション企画など、これも通常の学生生活だけでは得られない貴重な体験ばかりです。

だから、人とのコミュニケーションがとても重要です。地域のかたと接することは学生にとって『医療人』とは、どうあるべきか』を学ばせていただく、とても良い機会となります。地域との付き合いは、医療人に欠かせない『授業』といっても過言ではありません。

をするところというイメージが強いのですが、学生がさまざまな活動を通して、地域に届け、その力を発揮していただければ市にとってもありがたいことです。



▲座談会は、平成28年で創建100年を迎えた、渋沢栄一翁ゆかりの『誠之堂』で行いました

**内山学長** 本学では『がんばる！学生プロジェクト』という、学生の自主的な活動を支援する取り組みを行っています。



埼玉工業大学 学長  
うちやま しゅんいち  
**内山 俊一**  
東京都出身  
平成23年から学長を務める



▲平成28年に完成した『ものづくり研究センター』。ここでは先進技術を研究・開発しています

**小島市長** 東都医療大学の学生も認知症患者とその家族の集いの場である『オレンジカフェ』をはじめ、さまざまな場で、地域の方々

**小島市長** 両大学とも、学生が地域のかたと協力し、さまざまな効果が生まれています。行政だけではできなかったこともあり、今や互いになくてはならないパートナーです。

また、学生も地域に出てさまざまななかたと交流することで、人間的な成長が見られます。

## 地域・大学・市の連携を 地域課題の解決に

### 『連携』が発展の鍵

**小島市長** 私は、これからも深谷市が発展していくためには『農業』がひとつのポイントになることを考えています。

しかし、農業の6次産業化や農作物のブランド化を目指す一方、実は、高齢化や後継者不足など多くの問題も抱えています。

**内山学長** 私たちも、深谷市が農業が盛んな地域であることは日頃から意識しています。

最近では、本学で酵素を専門にしている先生が、地元の漬物業者さんと一緒に研究をしようという動き始めています。学内では植物の研究もしているの、今後さまざまな場面で地域に貢献することができるとは思っています。

**小島市長** ありがとうございます。6次産業化やブランド化を進めるにあたっては、これまでとは違った売り方や食べ方をしていく

ことが大切です。中でも深谷の野菜は間違いなくおいしいのですが、さらに栄養面などのアピールができれば、今抱えている農業の課題も少しずつ解決していくのではないかと考えています。

**中條学長** 看護学の中において『栄養』は大切な要素のひとつです。本学では、平成30年4月に管理栄養学部を設置しており、『栄養』の専門家を育成していることを考えているので、加工品もとなる新鮮な食材が豊富にある深谷市で、栄養関係の教育活動ができることは、大学としても恵まれています。

これから、農業に携わるかた、またそれを加工するかたなど、さまざまなかたと連携を取りながら、研究をしていくことができれば、本学もより発展していくのではないかと考えています。

**小島市長** おふたりのお話を伺います。それぞれの大学と深谷市また大学同士で連携して、ひとつ

にも力を注いでいましたよね。

本学も、医療系の大学ですのでそうだと思います。通じるところがあ

**内山学長** 平成28年で本学は創立40周年を迎え、私もこちらに勤めて37年が経過し、大学とともに歩んできました。

また、長く市内に住んでおり、日本の近代化を築いた深谷出身の栄一翁を日頃から誇りに思っています。

**中條学長** 栄一翁の素晴らしさは、経済と福祉のバランスを備えているように感じます。この

ように2つの分野にこれほどまで大きな影響を与えた人物は少ないですよ。

**小島市長** 栄一翁の行動の原点には、『人を幸せにしよう』という強い理念があったと思います。

栄一翁の時代から長い年月がたつていますが、今の『まちづくり』に関しても、栄一翁に学び、取り組まないといけないと思っています。

そして、両大学が進める地域貢献も、まさに『人を幸せにしよう』という通じる取組みだと思っています。



の課題にあたっていければ、きっと何か面白いこと、面白い化学反応が起るのではないかとわくわくします。

### 栄一翁の精神とまちづくり

**小島市長** この座談会の会場は、平成28年に創建100年を迎えた渋沢栄一翁ゆかりの『誠之堂』です。ぜひ、栄一翁についてこの思いをお聞かせください。

**内山学長** 以前、本学で大規模な学会を開催した時も深谷市の説明をする際に「渋沢栄一翁の生まれの場所です」と話す、皆さん

## ひとつでも多くの『幸せ』を 作りだすための『まちづくり』

### 地域の力を生かし、『幸せ』を作り出す

**内山学長** 大学は一義的には教育機関ですが、やはり、革新的かつ実地的な技術や知識を世の中に提供していくことを期待されていると思っています。

そしてその技術は、利益を優先したものではなく、先ほど、渋沢栄一翁のお話にもありましたように、人間が幸せになるための技術なんです。

本学では、平成28年に『ものづくり研究センター』という研究施設を建設し、その中でいわゆる自然エネルギーや蓄電池の開発のほか、まだ例のない開発も行っていると考えております。

ぜひ、地元の高校生には本学に入学してもらい、研究や活動に取り組んでもらいたいです。

**中條学長** 深谷市は、都心に近く、自然も楽しめる場所です。歴史的にも栄一翁のような、大人物



東都医療大学 学長  
中條 俊夫

東京都出身  
平成25年から学長を務める



▲東都医療大学での授業の風景。『医療人』となるためにさまざまな実習に取り組んでいます

ぐにわかってくれます。改めて、栄一翁の知名度を感じました。

**中條学長** 栄一翁は、経済人としても有名ですが、福祉や社会事業

を輩出したまちですから、私は、今後も大人物が出るのではないかと期待しております。

市内には高校が4校あるということなので、ぜひ、本学で学んでいただき、第2、第3の栄一翁のような人物を目指し、努力をしていただきたいと思っています。

**小島市長** 戦後、物が少なかった頃は、『ものがあれば幸せ』という感じがありましたが、豊かになった今、『幸せ』の形が多種多様なものになっているのではないのでしょうか。

私は、都心にも近いという地の利を生かしながら、ひとつでも多くの『幸せ』を作りだし、それを醸成させていく意味での『まちづくり』を進めていきたいです。

これから内山学長、中條学長には協力いただく場面がますます増えるかと思いますが、今後のご協力をお願いいたします。

本日はありがとうございます。